

OGANOおもてなしまちづくりプロジェクト ～文化と自然が香る町 小鹿野～ 地域まちづくり計画



小鹿野町公式
ご当地キャラクター
おがニャッピィ

令和8年3月
小鹿野町

取組の概要

まちづくりにおける課題

小鹿野町は令和7年3月で人口10,000人を割り込み、若い世代を中心とした人口流出による過疎化により、企業・事業所の縮小や店舗の撤退、地域経済の活力低下が進行している。このままの状態が続けば、2045年には人口5,000人台になることが予想されるため、若い世代や子育て世代の定住と安心して暮らせるまちづくりに取り組むことが重要である。また、町全体の商業発展のため、観光拠点を中心とした地場産品消費の促進や地域内での消費拡大が大きな課題になっている。

公共交通については、交通手段の少ない高齢者の移動支援も課題となっており、新たな公共交通サービスの導入を検討していく必要がある。

まちづくりの方向性

持続可能なまちづくりに向け、移住・定住対策として住環境整備事業を推進する。観光拠点である道の駅を中心とした観光の振興、地場産材や特産品の販路拡大により、産業の振興育成を強化し、「稼ぐ視点に基づいた」まちづくりを推進していく。

町の玄関口である大通り沿いの観光交流館の交流拠点機能を強化し、町内外の交流を通じて「つながり」を創出することで、「若者や子育て世代に選ばれる」まちづくりを進める。

公共交通については、運行の見直しを進める一方で、高齢者や住民の交通手段を維持確保する必要があるため、新たに自家用有償旅客運送事業を順次導入していく。

他の計画における位置付け

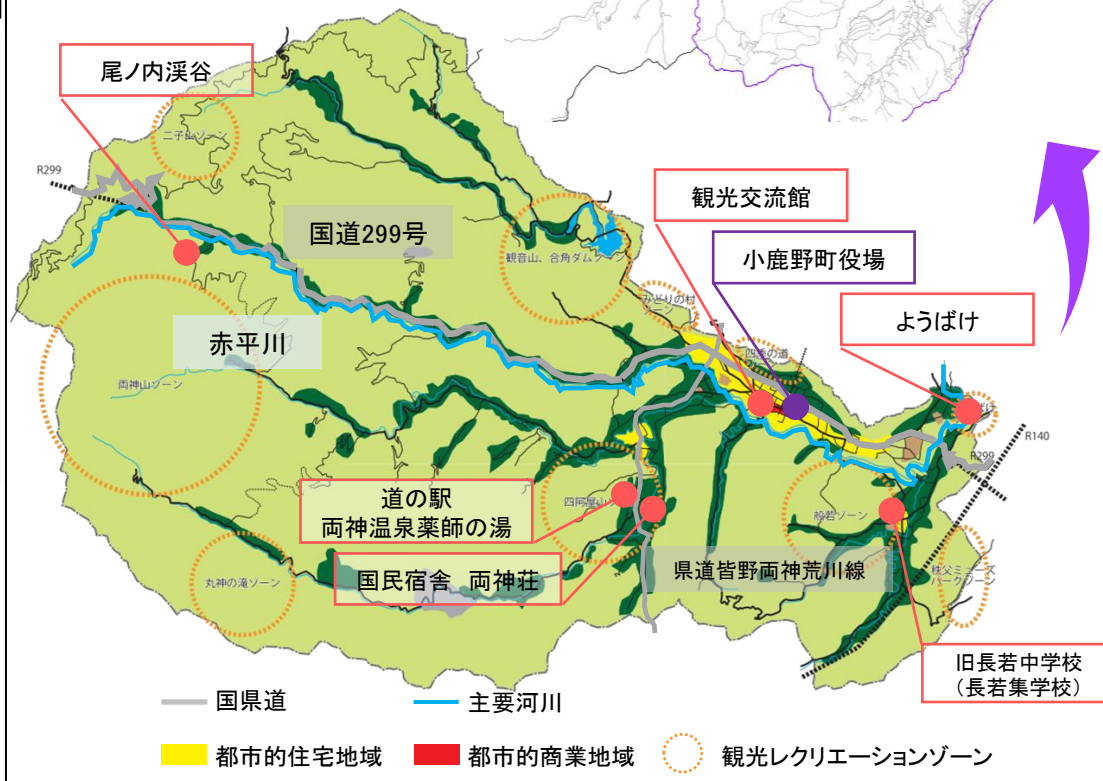
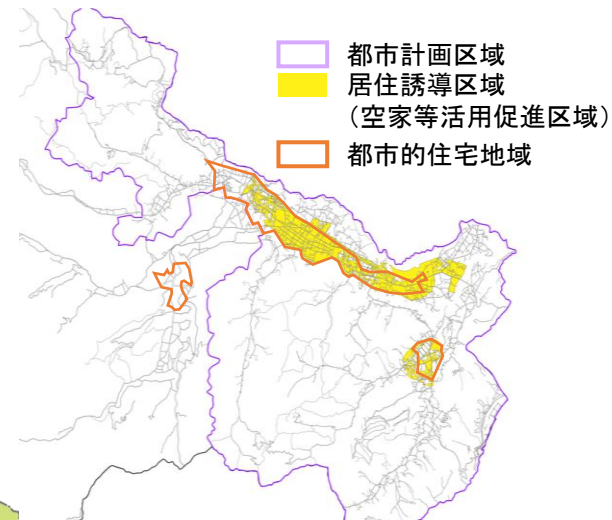
- ・第2次小鹿野町総合振興計画後期基本計画
- ・小鹿野町地球温暖化対策実行計画 第3次実行計画
- ・小鹿野町まち・ひと・しごと創生総合戦略
- ・小鹿野町過疎地域持続的発展計画
- ・小鹿野町公共施設等総合管理計画
- ・小鹿野町立地適正化計画
- ・小鹿野町地域公共交通計画

対象地域の位置及び区域 小鹿野町全域

▼立地適正化計画(案)計画図

コンパクトの要素の実現を目指す区域

- ・ 居住誘導区域
- ・ 都市的住宅地域



地域の現況

人口・世帯の状況

本町全域の人口は9,885人、世帯数は4,470世帯である。(令和7年9月1日現在)

国勢調査による本町の人口は、平成2年15,919人、令和2年10,928人となり、平成2年から令和2年までの30年間で4,991人減少し、減少率は31.3%となっている。

若年世代の都市部等への流出や非婚化などによる出生数の減少と団塊の世代を中心とした高齢化に伴い、少子・高齢化の傾向は、今後も続くものと思われる。

これらの背景や、過疎地域自立促進特別措置法の改正もあり、平成29年4月1日から小鹿野町は全域過疎指定となっている。

地域交通の状況

主要道路は、本町を東西に横断する国道299号と、南北に縦断する主要地方道皆野両神荒川線があり、これに主要な町道が結ばれる形で幹線道路網が形成され、これらの道路網を補完するように町道などが張りめぐらされている。

公共交通機関については、町営バス3路線、民間バス3路線及びデマンド型乗合タクシーが運行され、町の最寄りである西武鉄道西武秩父駅、秩父鉄道秩父駅に接続をしている。

今後、人口減少による利用者の減少が見込まれる一方、高齢者の運転免許証の自主返納が増加することが予測され、利便性の高い公共交通の確保が重要となっている。

開発の状況

・小鹿野地域：中心市街地ゾーン

商店街があり、役場、病院等の主要な施設があり、コンパクトで安心して生活ができる環境を整えている。

・長若地域：農業産業交流ゾーン

本町の中心的農業地帯であるとともに、利便性の高い地域であることから、企業立地や産業の振興を推進している。

・三田川・倉尾地域：スポーツ・名水ゾーン

総合運動公園、みどり村等が整備されておりスポーツ、レジャーの拠点となっている地域である。

・両神地域：観光ゾーン

両神温泉薬師の湯、国民宿舎、神怡館などの公共施設が整備されており、観光拠点になっている。

地域資源

秩父多摩甲斐国立公園、県立西秩父自然公園、県立両神自然公園、県自然環境保全地域などに指定された豊かな自然環境があり、日本百名山の「両神山」、日本の滝100選の「丸神の滝」、森林浴の森日本百選の「両神国民休養地」や日本の地質百選の「ようばけ」、平成の名水百選の「毘沙門水」と多くの「百選」に選出された観光資源を有している。

また、歌舞伎などの伝統文化や札所をはじめとする神社・仏閣など歴史的観光資源にも恵まれている。

「ようばけ」や「犬木の不整合」などのジオツーリズムを楽しめる魅力的な場所が数多くあり、これらの地質資源を観光資源として活用することが求められている。

まちづくりのコンセプトと事業全体の概要

まちづくりのコンセプト

本町では、急激に進行する少子化と人口減少に対応するため、町内の若者や町外で暮らす子育て世代のUターン者の定住対策を進めている。その一環として、学校跡地を活用した住環境整備を進めていく。

また、観光地と市街地をつなぐ回遊性を高め、情報を集約・発信できる機能を備えた拠点を整備することで、人が集い、交流する場を創出する。

公共交通対策においては、デマンドバスや自家用有償旅客運送等を導入するとともに、ICT技術を活用した新たな交通政策を展開し、移動の利便性を高める。

さらに、災害に強く安心して子育てできる環境を整えることで、町民がWell-Beingを感じることで選ばれるまちづくりを目指す。

まずは人と人がつながり集う場の拠点整備を進め、町民が主体となってまちづくりに参画できる環境と持続可能なまちづくりを推進する。

推進体制

(1)小鹿野町観光協会

町民、観光に関係ある団体、学識経験者、関係行政機関の職員等

(2)小鹿野町地域公共交通協議会

町民、交通事業者、学識経験者、関係行政機関の職員等

(3)小鹿野町、空家対策協議会

町民、町議会議員、法務局、不動産、建築、福祉、学識経験者、関係行政機関の職員等

事業全体の概要

【コンパクト】地域拠点を中心とした交流拠点・観光機能強化によるコンパクトシティの確立

- 道の駅周辺エリアや観光交流館など、まちなかの交流拠点を整備し、地域の交流機能を強化する。
- 女性や若者の移住定住対策及びUターン者の受入として居住誘導区域での住環境整備を促進する。

【スマート】スマート技術を活用した、公共交通の見直しと利便性向上

- 新たな交通手段として自家用有償旅客運送によるデマンドタクシーをICT技術を活用して運用し、移動の利便性向上を図る。
- デジタル技術を活用し便利で使いやすい行政サービスの提供を推進する。
- ドローンを活用した有害鳥獣対策や農業DXにより生産性を向上させブランド力を強化し、生産者の魅力を情報発信するとともに販路拡大を図る。

【レジリエント】地域特性に応じた再生可能エネルギー活用、災害時でも途絶えないサービス提供の実現

- 再生可能エネルギーを活用し、災害時でも途絶えない電力を確保するとともに、災害に強いまちづくりを目指す。
- 指定避難所となる公共施設の環境整備を推進し、避難者の安全や生活の場を確保する。

計画図

コンパクト

- まちなか施設「観光交流館」の拠点機能強化(小鹿野地域市街地)
- 道の駅両神地区・観光拠点機能強化検討事業(両神地域中心地)
- 旧長若中学校校庭利活用事業(居住誘導区域)
- 空き家対策利活用事業(空き家等活用促進区域)

スマート

- 自家用有償旅客運送導入事業(町全域)
- 窓口業務のデジタル化(町全域)
- 稼ぐ農業の推進と販路拡大(町全域)

レジリエント

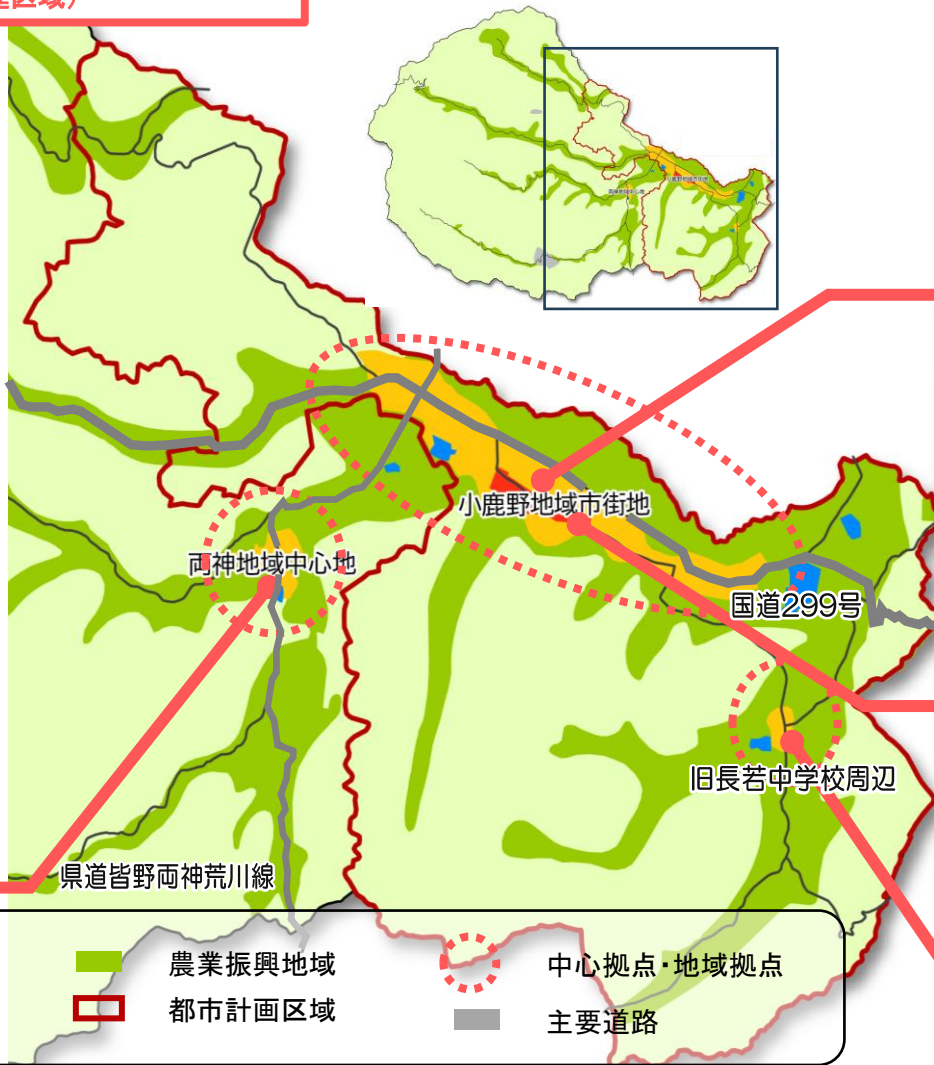
- 再生可能エネルギー導入事業(町全域)
- 指定避難所環境整備(町全域)



自家用有償旅客運送(イメージ)



道の駅両神温泉薬師の湯



観光交流館



小鹿野町役場



旧長若中学校

凡例

- 都市的住宅地域
- 都市的商業地域

- 農業振興地域
- 都市計画区域

- 中心拠点・地域拠点
- 主要道路

【コンパクト】事業一覧

事業名	実施主体	事業内容	スケジュール					備考	
			R7	R8	R9	R10	R11		R12以降
道の駅両神地区・観光拠点機能強化検討事業	町	両神地区・観光の拠点となる道の駅周辺エリアを整備するとともに、地場産品を中心に販売促進機能を強化することで、新たな交流人口の創出を図る。	事業検討		実施設計	整備		運用	埼玉版スーパー・シティプロジェクト推進補助金を活用予定
旧長若中学校校庭利活用事業	町	グラウンドを活用して、地元住民の交流の場をつくとともに、少子化対策並びに若者の定住対策として宅地等を整備する。	事業の検討		整備		運用		埼玉版スーパー・シティプロジェクト推進補助金を活用予定
空き家対策利活用事業	町 近隣市 町	ちちぶ空き家バンクに登録された物件に対し、当該空き家の改修費用の一部を補助する。	補助金交付					空き家バンク活性化支援事業(県)	
交流拠点の機能強化	町民・町	小鹿野町の玄関口である大通り沿いの観光交流館を町内外の人が集い、交流するための施設として整備する。	計画策定 実証事業	整備	賑わいを創出するイベントを開催				埼玉版スーパー・シティプロジェクト推進補助金を活用予定

KPI

コンセプト	指標	基準値(調査時点)	目標値(達成年度)	備考
全体共通	居住誘導区域における人口密度	13.18人/ha (令和2年度)	8.02人/ha (令和27年度)	「小鹿野町立地適正化計画」の指標に基づく ※現状のまま推移した場合、将来の見通しは7.05人/ha(同年度)
コンパクト	観光交流館を利用し、世代や地域を越えて新たなつながり交流を図ることができた人の割合	—	70% (令和12年度)	観光交流館利用者アンケート結果
コンパクト	道の駅直売所年間売上額	64,000千円/年 (令和7年度)	70,000千円/年 (令和12年度)	
スマート	自家用有償旅客運送利用者数 (路線バスからタクシーへ移行した際の利用者数)	5,998人/年 (令和6年度) ※民間バス年間利用者	6,000人/年 (令和12年度) ※自家用有償旅客運送利用者数を想定	基準値は西武観光バスの利用者データに基づく
レジリエント	電気自動車充電設備の導入	0基 (令和7年度)	1基 (令和12年度)	
レジリエント	地域防災訓練住民参加率	13.48% (令和7年度)	30.0% (令和12年度)	